

◎今週の御言葉「聖霊降臨の恵み～教会の誕生～」(ヨシュア記1章1～9節、使徒の働き2章1～11節)

「…強くあれ。雄々しくあれ。恐れてはならない。おのいてはならない。あなたの神、主が、あなたの行くところどこにでも、あなたとともにあるからである。」(9)

「すると、みなが聖霊に満たされ、御霊が話さしてくださるとおりに、他国のことばで話しだした。」(2,3)

◎聖霊降臨の出来事とは何なのでしょう？ 私たちにどのような関わりがあるのでしょうか？

◎ヨシュアはモーセの後継者として立てられ、イスラエルの民をカナンの地に導き入れるための使命を与えられたのです。モーセはイスラエルの民をエジプトから解放するために用いられ、また荒れ野での旅路40年間、導いてきましたが、カナン入国を目前してヨシュアにバトンタッチしたのです。ヨシュアは偉大な指導者の後継者として戸惑い恐れを抱いていたことですが、主なる神様が直々に語られたのでした。

◎使徒の働き2章は約束の聖霊降臨が起こった記事です。「五旬節の日になって」(1)とは「日が満ちて」です。聖霊降臨の出来事は神様の約束が成就したことです(ヨエル2:28-29, ルカ24:49, 使徒1:4-5, 8)。この「五旬節の祭」はレビ記23:15-16に由来し、ユダヤ教の三大祭(過越の祭、七週の祭、仮庵祭)の一つです(過越祭の安息日の翌日から数えて満七週間を経た翌日まで50日)。その日に約束の聖霊が降った。

①聖霊降臨の出来事は「みなが一つ所に集まって」祈っていた時に起こったのです(1, 1:15, 2:44, 49)。私たちも主イエス様の約束を信じ、共に心を合わせて祈る群れでありたいと願っています(マタイ18:19-20)。

②「御霊が話さしてくださるとおりに…話し出した」。それは「炎のような舌が分かれて現れ、一人ひとりの上にとどまった」からです。炎は罪を焼きつくし、潔めると同時に愛を表わしています(ガラテヤ5:22)。「舌」は「言葉」を語る働きにも用いられます。ですから、相手の理解出来る言葉で証しする者と変えられたのです(ルカ12:11, 12)。

③使徒の教えを大切に守り、愛の交わりが深められ、聖餐に与り、心を合わせて共に祈った。教会が一致して神様を愛し、隣人に仕え、愛に生きる歩みをするのが証しとなる。その結果、日々仲間に加わる者が加えられた。私たちもそのような歩みに与る証し人とされるように祈り求めましょう。

◎最後に、ペテロが大胆に語った福音の内容は、①悔い改め、②洗礼、③罪の赦し、④聖霊の約束です。私達も自分の罪深さを知り、日々悔い改めと信仰をもって主イエス様の十字架を仰ぎ、聖霊を求め、日々、御霊に満たされ、教会生活を大切に、聖徒の交わりに与り、証しの生活をさせて頂こう。